

## 2020年度 小委員会活動成果報告

(2021年2月9日作成)

小委員会名	構造物のモデル化と力学教育小委員会		主 査 名：諸岡繁洋 就任年月：2018年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)		委員長名：塩原 等 主 査 名：高田豊文
設 置 期 間	2018年4月 ～ 2022年3月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>D値法など手計算の時代に教えられていた手法は、数値計算全盛の今日、ほとんど教えられていない。精緻な数値解析モデルを正しく作るためには力学的な感性が必要であるが、時間がかかるモデル化にばかり気をとられ、力学的な感覚を持たないまま算出された解を鵜呑みにし、間違っただesignに至ってしまう可能性が否定できない。デジタルネイティブな学生にこそ、コンピュータのない時代に教えられてきた力学教育をするべきではないか。本小委員会では、過去に行われてきた力学教育を見直すとともに、構造設計者が設計の初期段階で構造安全性を確認する簡便な手法・考え方を、活躍中の構造設計者から広く集め、次代を担う学生への教育に役立てる資料を提供することを目的とする。</p> <p>初年度：大学における構造教育変遷の調査、参加委員の設計事例、研究事例の整理、話題提供者の検討</p> <p>2年度：検討項目の分析</p> <p>3年度：検討項目の分析（前半）、まとめ作業（後半）</p> <p>4年度：研究集会の準備（前半）、研究集会の開催、研究集会用資料の作成</p>		
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：無		
	主査：諸岡繁洋（東海大学） 幹事：朝川 剛（東京電機大学）、野村圭介（東海大学） 委員：片迫幹男、佐藤 淳（佐藤淳構造設計事務所）、新宮清志（日本大学）、前 稔文（大分工業高等専門学校）、山田耕司（豊田工業高等専門学校）		
設置WG (WG名：目的)			
2020年度予算	40,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	2020年度大会(関東)諸行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 教育を主に行ってきた委員と、実務経験豊かな委員の視点の違いを互いに理解し、委員間では大まかなフローの理解は進んでいるが、成果物としてのまとめにまでは至っていない。
委員会活動の問題点・課題	1. 地方在籍者や企業に勤めている委員が多く、小委員会の東京での開催は困難であったが、コロナ禍の影響でZoomによる開催が通常となり、開催自体の困難さはなくなったが、ネットワークが不安定になり、時間がかかった。